

ぼくの決意

三次市立八幡小学校五年 有重 満

ぼくは、白米が大好きです。味のついたごはんよりも白いごはんが好きです。給食でもごはんをもりもり食べます。ファミイルムでごはんを食べるとき、一・二年生が、
「かき氷みたいなのがごはんじゃあ」と言うくらいのごはんを友だちと競争するみたいになります。

ぼくの父は、ぼくが大好きな米を作っている
三次市立八幡小学校

るせん業農家です。父は毎日、自分の家や他の人の田の世話をしています。一学期は社会科で「米づくりのさかんな地域」について学習し、いろいろなることを考えました。特に、「米作り農家のかかえる問題と新しい取り組み」についてぼくの家とにているなあと感じました。

父は、地域にあるたんとさんの田の世話をしています。自分の家の田だけではなく、地域の人にお願いやられた田の世話をしています。

なぜかというところ、農家だ、たほとんどの人が
お年上りにならぬで農作業がむずかしくなり、
父のようなせん業農家にいたくする人がふえ
たからです。

そうなるよ、田がともも広くなり作業がた
いへんです。そこで父は、大きな機械を使っ
て農作業をしています。大きな機械を使うと
仕事は楽になりますか、とてもお金がかかり
ます。そうしても、必要を農家も肥料にもお
金がかかります。実際の作業もたいへんです
そうです。

三次市立八幡小学校

が、このお金の管理がとてもたいへんなのだ
そうです。
父母は、ほとんどの小学校に協力して農業体験
をしています。田植え、バケツリね、いねか
り、もみすりなど、楽しとおいしく体験でき
ます。これも、教科書にのっていたことと同
じで、いろいろな取り組みをしているんだな
と思いました。

父母はよく、お客様への対応や米の値段に
ついて話しています。そして、

「しんどいことはたくさんあるが、お父さん
から『お米がおいしいよ』と言われたら、
全部おきとんでいく。」

「自分で思うように工夫してできるから、こ
の羽仕事が好きなんじゃ。こうして、かんば
って仕事をして、地域のみなさんに愛され
る農家になりたいよ。」

「明るくうれしそうに話してくれまます。ほ
くは、『お客様を大切に、農業をがんば
っているんだな』とほこらしく思います。」

三次市立八幡小学校

ぼくは、今の農業のたいへんさを知り、ま
た、父や母のすがたを見て、農家をつこうと
決意しました。父のように農業を少なくした
り、自然の物を使ったり肥料を使ったりした
いです。そして、一番めざすのは、父母が今も
目標にしている「地域のみなさんに愛される
農家」です。おいしいごはんを作りたけです。